

[前画面へ戻る](#)

科目名	都市経済論 I
配当年次	3年次
開講期間	春学期
単位数	2
担当教員	高橋 達(タカハシ トオル)
期間・曜日・時限・教室	春学期 火曜日 1時限 23-412

※

授業の目的・目標 **授業の概要**

都市にはたくさんの人や企業が集まっています。どうして人々や企業は集まるのでしょうか？それはお互いに近い場所に集まることにメリットがあるからです。例えば、都市には様々な種類の店舗や施設があり、多様な仕事など、多くのメリットがあります。これらのメリットは都市における経済活動を活発にし、住む人々の生活を豊かにしてくれます。一方で、都市にはデメリットも存在します。交通混雑、家賃の高騰、感染症のリスクなどは、その典型例です。これらのデメリットは企業の生産性や人々の生活の質を低下させる可能性があります。

都市経済学 I では、このような都市のメリットとデメリットを踏まえ、都市はどのように形成されるのか、どこに成立するのかといった問題を考えます。

なお、本科目は経済学部地域・環境コースにおける専門科目です。同コースを選択する方の積極的な履修を期待します。

授業の目的

都市の形成過程に関する基礎的な理論を理解、説明できるようになることを目的とします。

修得できる力

経済学部ディプロマポリシーのうち、以下に該当します。

- ① 経済学についての基礎知識を修得している。(○)
- ③ 経済学を中心とする社会科学の知識をもとに、現代経済社会の諸問題について主体的に考えて分析し、解決策の提案ならびに考察できる。(◎)

授業の到達目標

都市の形成過程と立地に関する基礎理論を理解し、実経済の分析に応用できるようになることを目標とします。

実務経験と授業内容との関連

なし

地域に係る科目について

該当しない

毎回の授業の予復習に、以下の時間を費やすことが目安となります。

準備学習等の指示 予習（1時間45分）：講義資料により、授業の大まかな流れをつかんでおくことが望まれます。次回対象となる項目については各授業の終了時に説明します。

復習（1時間45分）：毎回の授業内容に関する確認テストを課します。授業で取り上げた重要なポイントを中心に、ノートを見直し論点を整理して解答してください。

講義スケジュール 第1回

【テーマ】 イントロダクション

【到達目標】 授業の受け方を理解し、都市経済論 I の内容を概観できる。

【準備学習】 シラバスを熟読すること。

【特記事項】 対面授業です。

第2回

【テーマ】 日本の都市の現状

【到達目標】 都市白書を用いて、日本の都市の現状を理解できる。

【準備学習】 講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】 オンライン（オンデマンド）授業です。

第3回

【テーマ】 都市経済学を学ぶ上での基本概念①

【到達目標】 限界原理とパレート効率性について理解できる。

【準備学習】 講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】 オンライン（オンデマンド）授業です。

第4回

【テーマ】 都市経済学を学ぶ上での基本概念②

【到達目標】 小売店の出店と立地に関するモデルを用いて、ナッシュ均衡について理解できる。

【準備学習】 講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】 オンライン（オンデマンド）授業です。

第5回 都市はどのように形成されるか？①：比較優位と生産の特徴を通じて都市の形成を理解できる。

【テーマ】 都市はどのように形成されるか？①

【到達目標】 比較優位と生産の特徴を通じて都市の形成を理解できる。

【準備学習】 講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】 オンライン（オンデマンド）授業です。

第6回

【テーマ】 都市はどのように形成されるか？②

【到達目標】集積の経済を用いて都市の発展過程を説明できる。

【準備学習】講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】オンライン（オンデマンド）授業です。

第7回

【テーマ】都市はどこに発展するのか？

【到達目標】製造業の立地問題を輸送費用に着目して理解できる。

【準備学習】講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】オンライン（オンデマンド）授業です。

第8回

【テーマ】市場都市①

【到達目標】小売店の立地問題を市場の大きさと規模の経済に着目して理解できる。

【準備学習】講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】オンライン（オンデマンド）授業です。

第9回

【テーマ】市場都市②

【到達目標】中心地の理論を用いて、様々な規模の都市が形成される理由を理解できる。

【準備学習】講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】オンライン（オンデマンド）授業です。

第10回

【テーマ】都市規模

【到達目標】都市のメリットとデメリットを考慮して、望ましい規模の都市は自律的に形成されるのかを理解できる。

【準備学習】講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】オンライン（オンデマンド）授業です。

第11回

【テーマ】都市間の人口移動

【到達目標】都市間の賃金格差に着目して人口移動を理論的に理解できる。

【準備学習】講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】オンライン（オンデマンド）授業です。

第12回

【テーマ】都市の労働市場

【到達目標】都市部における賃金率と雇用の決定と都市政策による影響について理解できる。

【準備学習】講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】オンライン（オンデマンド）授業です。

第13回

【テーマ】 総括

【到達目標】 都市経済論 I の内容を総括できる。

【準備学習】 講義資料の該当部分を熟読する。

【特記事項】 対面授業です。

教科書 WebClassにて配布する講義ノートを用いて授業します。必ず印刷して授業に臨むようにしてください。

参考文献 佐藤泰裕（2014）『都市・地域経済学への招待状』有斐閣

第1回と第13回は対面授業です。第2回から第12回まではオンライン（オンデマンド）授業です。オンデマンド授業の受講方法は初回の授業時に説明します。

授業の方法 講義形式の授業をします。
毎回の確認テストについては、次回の授業時に解説によりフィードバックします。
講義（確認テストを含む）の連絡、資料の配布はWebClassを利用します。

1. 評価方法

期末試験（対面にて実施する）、確認テスト

2. 割合

期末試験（50%）、確認テスト（50%）

成績評価方法

3. 評価基準

- ・ 期末試験は対面にて行います。
- ・ 確認テストは授業の内容に関する基礎的な問題を出題します。
- ・ 学則に基づき、13回の授業の内、1/3（5回）以上欠席をすると、評価の対象になりません。

オフィスアワー

火曜昼休み

居室

23号館313室

ホームページ

その他特記事項

- ・ ミクロ経済学の基礎的な知識（ミクロ経済学 I ・ II に相当する内容）を学習済みであることを前提とします。
- ・ シラバス上、オンライン授業となっている回においても、対面授業となる可能性があります。
- ・ シラバスを熟読していることを履修の前提とします。

添付ファイル

[前画面へ戻る](#)